

指導計画の意義と役割

教育課程は、各教科、特別の教科 道徳、外国語活動、総合的な学習（探究）の時間及び特別活動について、それらの目標やねらいを実現するように、教育の内容を学年段階に応じ授業時数との関連において総合的に組織した学校の教育計画である（本編 P 23 IV－1－(1) 「教育課程の意義、基準及び編成」参照）。それを具体化した計画が指導計画であり、指導計画は、指導方法や使用教材、も含めて、各学校で、地域や学校の実態を考慮し、創意工夫して作成される。

指導計画の作成に当たっては、各教科等の目標と指導内容の関連を十分研究し、単元や題材等内容や時間のまとまりを見通しながら、まとめ方等を工夫したり、内容の重要度や児童生徒の学習の実態に応じてその取扱いに軽重を加えたりして、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を通して、資質・能力をはぐくむ効果的な指導を行うことができるように配慮することが必要である。

また、各学級等において、日々の教育活動を進める際には、自校の指導計画に示された、各教科・領域等の目標や具体的な指導内容、指導時数等を理解し、適切な指導を行わなければならない。

指導計画の内容と種類

指導計画は、各教科、特別の教科 道徳、外国語活動、総合的な学習（探究）の時間及び特別活動のそれぞれについて、各学年あるいは学級等で作成される。

指導計画には、実際の指導を進めるに当たって必要な指導目標、指導内容、指導の順序、指導方法、使用教材、指導の時間配当、評価計画等が含まれる。指導計画には、年間指導計画や2年間にわたる長期の指導計画から、各学期、月、週、単位時間、あるいは単元、題材、主題ごとの学習指導案に至るまで各種のものがある。

日々の指導や授業の計画・実施に当たっては、各学校で作成された年間指導計画等を適宜参照し、そこに示された目標や指導内容に従って進める。また、学級担任、教科担当等として、週指導計画や学習指導案等、必要な指導計画を作成して計画的に指導を進める。

年間指導計画

年間指導計画は、教育課程・教育全体計画に基づいて、各教科・領域等において、1年間（若しくは2年間）の長期計画として作成される。学期や月ごとの指導計画や週指導計画は、年間指導計画に基づいて作成される。

年間指導計画には、目標、内容、順序、時期、時数等が含まれることが一般的である。ただし、指導計画は、各学校が自校の教育目標や児童生徒の実態や課題に即して、創意工夫して作成するものであるため、特に決められた内容項目や様式等はない。指導に際しては、自校の年間指導計画の構成や内容をよく理解、把握しておくようにする。

週指導計画の意義と役割

週指導計画（週指導案・週案）は、年間指導計画で計画された内容を児童生徒の実態や他の教科との関連、各種行事との関連等を考慮し、実際の時間割に即して計画、配当するものである。週指導計画によって適切に計画、配当することで、予定していた時数の超過や余剰を防ぐことができる。また、学年や学校全体の活動計画と連携・調整を図ることで、日々の学習指導や生徒指導等を効率的に進めることができる。週指導計画は、年間指導計画と日々の指導、本時の学習指導とを結び付けるものであり、学級担任、教科担当等として、毎週作成・活用することが大切である。

週指導計画の主な内容

週指導計画は、各学校において様式や内容項目を調整し、作成するものである。一般的には、時間割表の形式で、教科名、単元（題材）名、教材名、本時の目標、主な内容、準備物、本時の時数（「○／○」等）、週や月の累積授業時数等を記載する。

なお、毎時間のねらいを確実に達成するためには、児童生徒が目標を達成した際の姿を具体的に想定し、適切な指導が行われることが重要である。そのため、評価の観点や評価規準を記載する場合がある。

また、授業改善の視点から、実施後の反省や児童生徒の学習状況等をメモする場合がある。いずれの場合も、日々の指導の充実に必要な内容で構成された週指導計画を作成し、実際の指導に活用していくようにする。

週指導計画作成上の留意点と活用

週指導計画を作成する際には、以下のことに留意する。

- 年間指導計画等に従っていること
- 学年、学校全体の行事等と調整を行った上で、無理のない計画を立てること
- 作成に当たっては、学年の教員と相談したり、校長、副校長、教頭、主幹教諭、指導教諭、教務主任（部長）の指導を受けたりするなど、連絡及び調整を十分行うこと
- 児童生徒の実態等を記入する際には、個人情報の保護を十分に配慮すること
- 実施時期に先立って時間的な余裕をもって作成すること

学習指導案の意義と役割



学習指導案
ハンドブック

学習指導案を作成することは、どのような資質・能力を育成するために、児童生徒が、「何を学ぶか」、「どのように学ぶか」という授業の内容や手順を具体的に考えていくことに他ならない。指導者は、学習指導案を作成することを通して、その内容や指導方法を事前に考えたり工夫したりしながら練りあげていく。つまり、学習指導案は、その時間のねらい（育成を目指す資質・能力）を達成するための設計図であるといえる。

京都府総合教育センターでは、学習指導案を作成する際の手引きとして「学習指導案ハンドブック（令和3年3月）」を作成した。学習指導の在り方や実践的な指導力を身に付けるため、積極的に活用することが望ましい。

